



チャイニーズティーマスター 小田 純也による  
世界 中国茶紀行  
Vol. 14 白毫銀針の世界



今回は中国十大銘茶のひとつ「白毫銀針（はくごうぎんしん＝茶名）」についてご紹介します。  
近年、美容効果で話題の白茶は人里離れた深山でつくられています。

## 中国福建省 北部へ

白毫銀針が採れる福建省は中国国内でも有数のお茶の生産地。福建省と聞くと、日本ではペットボトル飲料でお馴染みのウーロン茶をイメージされる方が多いと思いますが、

実は福建省の北部では、中国茶の全生産量の内わずか1～2%程の生産量で希少性の高い「白茶」がつくられています。



中国茶は外観の色や茶汤の色合いによって「白茶」「緑茶」「青茶」「黄茶」「紅茶」「黒茶」に分類されます。

白茶には「白毫銀針」「白牡丹」「寿眉」「貢眉」「工芸白茶」「花香白茶」「白茶餅茶」などのタイプがあり、現地では白茶を原料にした菓子や石饅なども流通しています。

古くから白毫銀針がつけられている福建省の福鼎市（ふくてい）までは、福州長楽空港から約200km、空港から高速鉄道に乗り換え、市街地からは車で山間部へ向かいます。農村部では「子供の熱、はしかに白茶は効果がある」と、昔からの言い伝えを現在に受け継いでいます。

村の人達はこの地方で採れるお茶のことを「太姥山白茶 = tàimǔshān báichá」の呼称で親しんでいました。

## 母なる樹、雲の上の太姥山へ

「太姥山に登り雲の上で茶をいただく」とは古来より白茶にまつわる伝説。山腹には白茶始祖の「母なる緑雪芽の樹」が現存しています。

太姥山には次のようなエピソードがあります。昔々、この山にお婆ちゃんが住んでいました。お婆ちゃんは“緑雪芽”というお茶を作っていて、流行り病にかかった人に飲ませると、皆、元気になったのです。人々は偉大なる太母、「太姥」と敬いました。（太姥とはお婆ちゃんのこと）



太姥山は国内外から多くの観光客が訪れる景勝地。およそ1億年前の白亜紀終わり頃、地殻の隆起によって形成された花崗岩質の山で、2013年、観光地としては最上級の称号である国家



AAAAA 級風景区に国から指定され、2015 年にはユネスコに「寧徳ユネスコ世界ジオパーク」に指定された世界地質公園です。岩窟の特異な姿は、人や動物に例えられています。右の写真は「夫妻峰」。垂直にそびえ立つ岩山は迫力満点です。

## 白毫銀針ができるまで

収穫は春先（3月中旬頃）から始まり、熟練の茶農が新芽だけを1本1本選んで丁寧に手摘みで行います。葉を一緒に摘むことはありません。



右の写真をご覧ください。右側の摘み方が白毫銀針、左側が白牡丹の摘み方です。



収穫後は特に手を加えず、竹製のカゴに均等に広げ、風通しの良い所に移します。



天候によって、太陽がある場合は2～3日間、室内の場合

なら3～5日間程。この工程を「萎凋＝いちょう」といいます。月の光でゆるやかに行うという逸話がある程、ゆっくりと萎凋をすることが特徴です。萎凋をすることで葉はしなやかに萎え、水分減少によるストレスを受け、酵素の働きによって、葉内の水分蒸散と共に香気成分が生成されます。白毫銀針特有の小さなお花の甘い香りや、若草のような爽やかな香りが生まれる重要な工程。

白毫銀針の製法はきわめてシンプルです。他のお茶のように、釜炒りをしたり、揉み込んだりはしません。そのため、完成した茶葉が白銀（＝豊富な産毛）に覆われた針の



ような形状をしていることが白毫銀針の名の由来です。

新芽には抗酸化物質が豊富に含まれていること、そして時間をかけた萎凋によって渋味・苦味成分が和らぐことで優しい口当たりになること、これらを兼ね備えていることが、美容効果やアンチエイジングケアに人気の秘訣だと私は思うのです。

## 白毫銀針の愉しみ方

白毫銀針を飲む時はガラス製の器をお勧めします。お湯を注いでしばらくすると、茶湯の中で葉が1本1本垂直に立ち出し、まるで笹鳴りが心地よい竹林のような、静寂で幻想的な世界を鑑賞できます。



皆様も是非一度試してみてくださいはいかがでしょう。

撮影：小田 純也

中国料理 香桃

レストランのご予約・お問い合わせ

TEL 06-6343-7020 (直通)

営業時間 10:00 a.m. ~ 7:00 p.m.

[rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com](mailto:rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com)

ザ・リッツ・カールトン大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目5番25号